

【23_156市況メルマガ】日経平均の上昇相場と、今後の展望

〇〇さん

こんにちは、クロです。

今日は、国内経済がちょっとした節目にいるこの頃、久しぶりに市況ネタをお送りしたいと思います。

日経平均の上昇がとどまるところ知らずという状況です。

「30000円台で一旦調整だろう」

「31000がいい加減に天井だろう」

そんな事を言っている間に、国内個人投資家の空売りなどをひたすら踏み上げ続け、気付けば32000円台の大台

この高値更新は33年ぶりと言われる事実が、この相場の尋常でなさを物語っています。

▼参考記事(日経サイトより)▼

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB043EL0U3A600C2000000/>

これに併せて、為替も特にクロス円は円安傾向が続いており、この背景は日経平均の尋常ではない上昇が背景になっていると考えられます。

その相関については、以前メルマガでも書きましたね。

▼【23_145市況メルマガ】ドル円と日経平均の相関関係▼

https://docs.google.com/document/d/1Ah5RLR9RjxmRGbmisyWgBwvWU9cWMTQwlrrWI_3_D60/edit?usp=sharing

他のマーケットも通してみると、NYダウ・英国・香港ハンセン指数等はあまり大きく上下がないばかりか

香港マーケットにおいては下落傾向、中国国内市場の向かい風感は相当強い状況です。

その中で、AIバブル(エヌビディア社株などによるAI半導体関係の高騰)で伸びているNASDAQと並び

日経平均は未だに力強い上昇傾向を示しています。

5月中旬から下旬にかけて、日経平均を強く押し上げる要因は半導体市場に偏っていたのでそのアンバランスさから

いずれ大きな調整が入ることを警戒している向きもありましたが、ここにきて各セクター(業種)でも追隨して株価が上昇

このメルマガを書いている現時点では、自動車関連なども力強く上昇傾向となっている状況です。

これだけ捉えると、日経平均が上げ続ける限り円安傾向も止まらないのでは？

と思う人も多いかもしれません。

ですが、何もクロス円相場の上下要因は、日経平均だけが影響するわけではありません。

これでトレードの方向性が見えるというわけではありませんが

中国は既に景気後退局面に向かっている状況なのは明らかで、今後米国も(債務上限問題はクリアしたとはいえ)

先週末の雇用統計結果の「いびつさ(着実に失業率と平均時給が下がっている)」、金利の逆イールド状態の長期化を考えると

近々金融・不動産関係での信用不安から信金の破綻ラッシュが起こる可能性が燦っています。

こうなった時、一時的に日本にも影響が及ぶ可能性があるものの、最終的に日本というマーケットに海外投資家の資金が集まり

日本(ひいては円)の単独勝ちの状況が(長期的に)作られるという流れになると予想しています。

つくづく、面白い時期に株・先物の勉強を始められて、少し気持ちが昂っているこの頃でした(笑)